

松原市教育委員会 10月定例会 議事録

1. 日 時 令和4年10月12日(水) 午後3時00分

2. 場 所 松原市役所 301会議室

3. 付議事件等

(1) 報 告 第5号 松原市立小中学校通学区域審議会委員の委嘱及び任命の専決処分の承認を求めることについて

第6号 松原市会計年度任用職員の給与に関する松原市教育委員会規則の一部を改正する規則の制定の専決処分の承認を求めることについて

(2) 議 案 第26号 松原市文化財保護審議会委員の委嘱について

(3) その他 ○令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

出席委員 美濃教育長 田中教育長職務代理者 有馬教育委員 和田教育委員
佐野教育委員 比嘉教育委員

事務局 小峰教育総務部長 浦井理事兼教育政策課長事務取扱 山森学校教育部長
田中教育総務部次長兼文化財課長 森岡副理事兼学校給食課長
矢野学校教育部次長
田中教育総務課長 猪俣教職員課長 森教育推進課長 前崎地域教育課長
大西教育研修センター長

美濃教育長	<p>それでは、会議に入りたいと思います。</p> <p>ただいまの出席委員は5名です。私を含めまして定足数に達しておりますので、会議は成立いたしております。</p> <p>(開会宣言 午後3時00分)</p> <p>これより10月定例教育委員会を開催いたします。</p> <p>本日の会議録の署名委員を指名いたします。</p> <p>委員会会議規則第17条第2項の規定により比嘉委員にお願いしたいと思います。</p> <p>よろしくお願ひいたします。</p>
比嘉委員	<p>お願ひします。</p>
美濃教育長	<p>それでは、初めに教育長報告を行います。</p> <p>お手元の資料に基づき、ご報告をさせていただきます。</p> <p>はじめに、9月28日から10月27日の予定で令和4年松原市議会第3回定例会が開催されております。現在、会期中でございます。</p> <p>先日、本会議の個人質問で教育関連の質問事項が多くございました。</p> <p>簡単に申し上げますと、ICTを活用した教育について、また不登校児童生徒の実態と支援の状況、キャリア教育、教職員の資質向上、アドバンストインターンシップ、進路指導、外国語教育、教科担任制、支援学級及び通級による指導について、読書の森などについてでございます。</p> <p>来週には、福祉文教委員会がございます。</p> <p>9月30日には、市の文化の日被表彰者選考委員会が行われました。</p> <p>10月7日ですが、この紙には書かれておりませんが、第2回第2期教育振興基本計画策定委員会が夜に開かれまして、市民アンケートや子どもアンケートの内容ですとか、これまでの取組成果と今後の対応等について議論をさせていただきました。</p> <p>以上、ご報告とさせていただきます。</p> <p>ただいまの件について、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。</p> <p>よろしいですか。</p>
各委員	<p>なし。</p>
美濃教育長	<p>それでは、議事に入る前に、9月定例教育委員会が出た質問について、事務局から説明をお願いします。</p>
猪俣教職員課長	<p>前回、9月定例教育委員会で、令和3年度決算の中でご質問いただいた件でございまして、ご説明させていただきます。</p> <p>お手元に、前回配付させていただいた令和3年度決算についての資料の一部をお配りしています。教育費のうち、要保護及び準要保護児童生徒援助事業にかかる2ページ分をお手元に用意しています。</p> <p>ご質問いただいていた内容は、この事業の中で財源内訳の中で国庫支出金がありますが、ということでこの額等についての問合せがあったかと思えます。ご説明申し上げますと、この要保護及び準要保護児童生徒援助事業というのは、いわゆる生活保護家庭に対して修学旅行費を援助するというものが一つと、生活保護よりも基準を緩めてですけれども、それ以外の準要保護家</p>

庭に対しては、就学援助制度ということで学用品費等の援助を行っているものでございます。そのうち、国庫支出金の対象になっているのが、生活保護家庭に対して支給される修学旅行費の2分の1が国庫補助の対象になっておりまして、その分を計上させてもらっているところです。

説明は以上となります。

美濃教育長

何か質問等ございますか。

和田委員

調べていただきましてありがとうございます。

必要な財源はほとんど市から出ているんだなど、さびしいなと思ひまして。それで中身をお聞きしたところです。ぜひ国には、生活保護、要保護、準要保護の家庭への支援ということが、学力にも影響してくることですので、ぜひ進めていただきたいなと思ひて聞きました。

以上です。

美濃教育長

ありがとうございます。ほかにもございますか。よろしいですか。

それでは、新型コロナウイルス感染症対策の実施による小中学校の現在の状況について、事務局から報告をお願いします。

山森学校教育
部長

新型コロナウイルスの情報を含めた学校の状況について、お伝えさせていただきます。

コロナのほうでまいりますと、全国的にも随分減ってきているという報道がなされているかというふうに思いますが、一転、全数把握の調査を全国的にやらないということになっておりますので、松原市もそれに準じまして9月25日までは全数把握、それ以降は把握しないということですが、学校のほうは一定、子どもたちの状況を把握してまいりたいということで、この間も引き続き学校とは連携を取りながらやっておりますので、そのあたりを申し上げます。

10月に入りましてからは全部で17名、比較対象として9月は197名、8月は380名でしたので、随分減ってきているなというふうに思っております。教員の感染も10月は現在のところでは2人ということですので、9月の13人、8月の50人と比べますとこちらも随分減少しているという状況ですので、一定学校のほうの教育活動もスムーズに進んでいるということでございます。

昨日からは大阪府のコロナの信号のほうも黄色から緑に変わっております、また一層教育活動を充実させられるかなと、こんなふうに考えているところでございます。

それに伴いまして、この間の学校行事で申しますと9月22日に中学校の体育大会を実施いたしました。一部、雨で順延をせざるを得ない中学校がありましたが、基本的には9月22日とその後で全て終了しているということでございます。10月2日は小学校の運動会を行いまして、こちらは15校がそろって10月2日に終了するというので、大きなトラブルもなく終わっております。

今後、中学校のほうは全校で修学旅行が終わっておりますけれども、小学校15校のうち1学期に実施した2校を除く13校が、いよいよこの10月後半か

	<p>ら11月前半にかけて、全て広島のように修学旅行に行きまして、学びを深めてまいりますので、またその状況につきましては次月報告をさせていただきます。</p> <p>以上でございます。</p>
美濃教育長	<p>ただいまの件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。よろしいですか。</p>
各 委 員	<p>なし。</p>
美濃教育長	<p>ないようですので、これより本日の議事に入ります。</p> <p>報告が2件、議案1件、その他1件となっております。</p> <p>それでは初めに、報告第5号「松原市立小中学校通学区域審議会委員の委嘱及び任命の専決処分の承認を求めることについて」を議題といたします。</p> <p>事務局より説明を求めます。</p>
猪俣教職員課長	<p>報告第5号につきましては議案説明資料の1ページでございますように、松原市内の住宅開発の状況や市内小中学校に在籍する児童生徒数の推移などを踏まえ、松原市立小中学校の通学区域について審議する委員について、令和4年9月24日で任期満了になることに伴いまして、松原市小中学校通学区域審議会規則第3条第2項の規定に基づき、新たに委員の委嘱及び任命を行うものです。</p> <p>なお、任期は令和6年9月24日までとなります。</p> <p>なお、本来であればこの議案については教育委員会の議決を経てということが正当だと思うのですが、今回松原市議会議員選挙があった関係で、どうしても日程的に事前に議案を提出することができず、教育長専決で対応させていただいたものです。議員名簿につきましては、お手元に別紙で新規・継続という備考欄を追記したものを別に用意させてもらったところです。20名の方々の名簿となっております。ご確認ください。</p> <p>説明は以上です。</p>
美濃教育長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの件について、何かご意見、ご質問ございませんでしょうか。よろしいですか。</p>
各 委 員	<p>なし。</p>
美濃教育長	<p>ないよう見受けられますので、報告第5号「松原市立小中学校通学区域審議会委員の委嘱及び任命の専決処分の承認を求めることについて」を承認することにご異議ございませんか。</p>
各 委 員	<p>異議なし。</p>
美濃教育長	<p>異議なしと認めます。</p> <p>よって、報告第5号「松原市立小中学校通学区域審議会委員の委嘱及び任命の専決処分の承認を求めることについて」は承認されました。</p>

森教育推進課長	<p>続きまして報告第6号「松原市会計年度任用職員の給与に関する松原市教育委員会規則の一部を改正する規則の制定の専決処分の承認を求めることについて」を議題といたします。</p> <p>事務局より説明を求めます。</p> <p>報告第6号「松原市会計年度任用職員の給与に関する松原市教育委員会規則の一部を改正する規則の制定の専決処分の承認を求めることについて」でございますが、議案説明資料の3ページ、4ページをご覧ください。</p> <p>令和4年10月1日より大阪府の最低賃金が現行の992円から31円引き上げられ、1,023円に改正されることから、松原市会計年度任用職員の給与に関する松原市教育委員会規則のうち、別表の表2中英語教育コーディネーターの給料時間額を998円から1,023円に改めるものでございます。</p> <p>4ページの表を見ていただきまして、英語教育コーディネーター、これまで998円だったのですが、1,023円というふうに給料の時間額を変更するものです。英語教育コーディネーターという役割につきましては、JET-ALTという外国人の先生が今、松原市には6名いらっしゃるんですが、来日の際に生活支援であったり、学校のほうで英語の授業を中心に指導されるんですけれども、そのサポートということで英語教育に堪能な方、今1名勤務していただいています。その方の給料ということになります。</p> <p>説明は以上です。よろしくお願ひします。</p>
美濃教育長	<p>ただいまの件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。</p> <p>ないように見受けられますので、報告第6号「松原市会計年度任用職員の給与に関する松原市教育委員会規則の一部を改正する規則の制定の専決処分の承認を求めることについて」を承認することについてご異議ございませんか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
美濃教育長	<p>異議なしと認めます。よって報告第6号「松原市会計年度任用職員の給与に関する松原市教育委員会規則の一部を改正する規則の制定の専決処分の承認を求めることについて」は承認されました。</p>
田中教育総務部次長	<p>続きまして議案第26号「松原市文化財保護審議会委員の委嘱について」を議題といたします。事務局より説明を求めます。</p> <p>それでは、議案第26号「松原市文化財保護審議会委員の委嘱について」ご説明いたします。</p> <p>今般、松原市文化財保護審議会委員の任期が令和4年10月31日をもって満了となりますので、松原市文化財保護条例第48条第3項に基づきまして、松原市文化財保護審議会委員の委嘱について議決を求めるものでございます。</p> <p>まず、松原市文化財保護審議会は文化財保護法及び松原市文化財保護条例に基づき、教育委員会の諮問に応じて市に所在する文化財の保存活用に関す</p>

る重要事項を調査し、意見を述べていただくため設置された審議会でございます。

議案説明資料の6ページをご覧ください。本審議会の委員は松原市文化財保護条例第48条第1項の規定により、委員10人以内をもって組織すること。また、同上第3項により文化財に関する知見及び経験を有する者のうちから委嘱することとなっております。

本日お配りいたしました松原市文化財保護審議会委員名簿をご覧ください。現在、委員数は8人ですが3人の委員が退任されます。また、その他審議の必要性に鑑みまして、考古部門の専門委員として3番目に記載しております滋賀県立大学人間文化学部名誉教授であります中井氏を後任として、またほかの5人につきましては、同上法令の48条第4項による再任により委嘱を求めるものでございます。

なお、任期につきましては令和4年11月1日から令和6年10月31日までの2年間となります。

以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

美濃教育長

ただいまの件について、何かご質問、ご意見はございませんでしょうか。

各 委 員

なし。

美濃教育長

ないように見受けられますので、議案第26号「松原市文化財保護審議会委員の委嘱について」を決することにご異議ございませんか。

各 委 員

異議なし。

美濃教育長

異議なしと認めます。よって、議案第26号「松原市文化財保護審議会委員の委嘱について」は議決されました。

続きまして、その他案件、「全国学力学習状況調査の結果について」の説明をお願いいたします。

大西教育研修
センター長

それでは令和4年度全国学力・学習調査の結果について説明いたします。令和4年4月19日に実施しました全国学力学習状況調査なんですけれども、小学校6年生の実施教科は国語、算数、理科の3教科、中学校3年生は、国語、数学、理科の3教科でした。

それでは大きく概況をお伝えします。

まず1、正答の状況という資料をご覧ください。1ページです。

小中学校全ての教科において、松原市の平均正答率は全国、大阪府の正答率を下回る結果でした。無答率についても中学校の国語、理科が府よりよい結果で、そのほかは府、国よりも無答率が高い結果となりました。

次に2ページの平均正答率、対全国比推移をご覧ください。今年度は昨年度と比べて、小中学校全ての教科において全国の正答率と比べて下降しております。これらの結果を詳しく分析していくと2つの課題が見えてきました。

1つは各教科の正答数の分布を見ると、教科によっては正規分布の形ではなく、低位層にも1つの山があり、そこに学力の格差が現れてきているので

はないかということです。もう一つは、これまで松原市はよくできていた基礎、基本の力を見る問題も、今年度は松原市全体の正答率が低く、基礎、基本の力の獲得に課題があるということです。

児童質問紙の結果からですけれども、このような質問、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができているという質問や、タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つなどの質問に、肯定的な回答をする子どもは国や大阪府と比べて高いことから、授業改善はある程度進んでいる部分があると思われます。

また、先生はあなたのよいところを認めてくれるという質問なんですけれども、この質問も肯定的に回答した子どもの割合は大阪府や国の平均を上回っております。教職員と子どもの信頼関係も構築されてきていると思われます。

以上の結果を踏まえ教育委員会としましても、この間の市としての授業づくりの方向性や各校園への関わり方などを総括し2つの方向性を出しました。

1つ目は、生きて働く知識、技能。いわゆる基礎、基本の力をつけることです。単に知識の暗記ではなく様々な場面で活用できる知識、技能の習得を目指す授業づくりを推進し、大切なことを子どもたち自身が見いだしたり、互いの考えを広げ深め合ったりできるような指導を充実させていくことを進めていきます。もう一点は、これまでも松原市で大切にされてきた子どもたち同士のつながりを深め、豊かな心と確かな学力を育ていく教育活動を展開していくことです。そのためにも各学校において、一人一人の子どもたちに真摯に向き合い続ける教職員の育成に努めていきたいと思えます。

以上のような分析と今後の方向性につきましては、今月の校長会におきまして、各小中学校の校長先生にお伝えしました。また、各校においても結果を分析し、今後どのような学力向上の取組を行っていくのか、今後ヒアリングを行っていく予定です。

また、今回の全国学力調査の結果は学力の一つの側面であり、今後リニューアルしていくキャリア教育も活用しながら、子どもたちが今の学びの意味を実感したり、自分の将来についての見通しを持てるようにしたりすることも重要と考えております。このような取組を通して、子どもたちの学びへの意欲を高めていきたいと思えます。

今年度の結果については、松原市のホームページでも公表しております。説明は以上です。よろしく申し上げます。

美濃教育長

ありがとうございました。ただいまの件について、ご意見、ご質問ございませんでしょうか。

和田委員

まず今回、今後の方針ということで出されているわけですが、具体的に次年度の小学校5年生に対して、この学力・学習調査は学力の全てを試験したわけではなく一つの指標ですけれども、されどある側面は示すものであるわけですね。だから我々の教育委員会としての取組、もしくは各学校の取組を、今までのやり方と変えてみるということが、まず必要だと思うんです。

その上で、特に小学校5年生、現5年生に対して何らかの取組をして、その結果上がったのか、それとも横ばいだったのか、下がったのか。そういう

次年度に向けて小学校5年生に焦点を当てた取組が、僕は必要ではないかと思えます。でない、一般的にやっても有効な施策は見えてこないから。そういう形でさらに詰めていただくというか。例えば算数なら算数でいいんです。あれもこれもやっても大変なので、算数なら算数で一度どこかの学校でモデルとしてやってみる。国語は国語で別の学校でやってみる。そういう比較調査の感覚も含めて、一度そういう計画を組んでほしいなというのを思っています。

以上です。意見で結構です。

美濃教育長

ありがとうございます。

大西教育研修
センター長

教育委員会事務局で今回指導主事と検討したときにも、基本の力という、今まで松原市が結構よかったところが、今回あまりよくなかったというところは、しっかり反省しないといけないということで、基礎、基本の力をつけていくような授業を、授業の中でどうつけていくのかということをやっていくべきだということを考えています。今の小学5年生を中心にしながら、その取組をやっていきたいなと思います。ありがとうございます。

田中委員

今、和田委員が言ってくださったので、そのとおりだと思うんですけども、要はこの数字を見て、一般、我々も含めて、あれ、全国、大阪府と全然違うね、と感じてしまうと思います。そこは内容がどうこうというのはあるんだけど、数字というものは一つの指標であって、そういった感覚、松原の教育はいまひとつだというようなイメージで見られるというのが一番怖いことだろうと思うんです。学校との信頼関係も含めて。そういった中で、やはり先ほどおっしゃったように、何か今までと違った取組というものが絶対必要になってくると思うので、そういったことにトライしてみて、次年度、今後、どうなっていくのかを検証していく必要が絶対出てくると思うんです。

先ほどおっしゃられたキャリア教育だとか、そういったことにも特化して、学力だけではない、そういったことで子どもたちを育てていきたい。それは当然そのとおり。それはそれで進めていかないといけないことだと思います。学力の点数だけでどうこうというものでないんですけども、最初に申したようにやはり数字が出てしまうと、その数字にみんな左右されてしまうので、そこはやはり何か試みというものは教育委員会として示していかないと、市民というか保護者に対しても信頼関係が崩れていってしまうことはいいことでないので、そこはきちりしなければいけないと思います。

もう一点、先ほどおっしゃられた学力の分布が正規分布ではなくて、二山になっているよというふうなお話があったんですけども、これは大阪府、もしくは全国共通したことなんですか。

大西教育研修
センター長

ご意見ありがとうございます。その学力の分布のことについてなんですけれども、データは、全国、府は多いのでこういうふうな山なんですけれども、松原市の場合でいくと教科によっては下位のところにも一つの山があるなというのが見えている教科もありましたので、そこは今後の課題かなというふうに捉えています。

田中委員

そこが一番大きな問題かなという感覚を受けたんです。というのは学力に差が出てきてしまって、いい子と悪い子との差、これをまず解消しないといけないと思うので、そこは重点項目として取り上げるべきだと思うんです。それをそのまま放置してしまうとその差が余計広がり、山の高さがもっと高くなるというふうな分布になりかねないと思います。

大西教育研修
センター長

ありがとうございます。この二つの山を通して見ますと、今回、基礎、基本の誰もが取ってほしいなという問題のところは課題であったということです。ですので、委員会としてもその問題の分析をするとともに、各校も、幾つか問題があるんですけども、しっかりとそこを見てもらって、どの子がどのような間違いをしてるとか、どのような回答をしてるかというところに着目してもらって、今後の学校としての学力向上の取組を考えてもらいたいということを、ヒアリングさせていただきたいということも要望しておりますので、学校のいろんな取組も考えながら、そこが大きな課題だと思っておりますので、結果が出るようにいろんな研究をしていきたいと思っております。どうもありがとうございます。

有馬委員

今回グラフの数字を見て、今まで一生懸命取り組んできたことが実を結ばなかったのかなと、正直ショックを受けました。学校で先生方は分かってもらおうと一生懸命授業をされていると思うんですけども、今回、こういう結果が来て、基礎、基本の解けてほしいところが解けていなかったところで、子どもたちがちゃんと理解しているかどうかの確認が、いま一つできていなかったのかなというところが気になりました。

あと、娘が家で宿題をしているときに、分からないと聞かれるときがあるんですけども、正直私も教えられたらいいんですけども、なかなか教えられる時間がなくて、「ごめん、先生に明日聞いて」と言ったときに、果たして本当に学校で聞いているのか、本当に理解しているのか、先生と向き合ってお話できているのかなというところが気になりました。家庭学習として家で見たいんですけども、なかなか見ることができなくて先生方に申し訳ないなと思っています。家でも、どういうところで教えてあげればいいのかとか、もうちょっと学校からも言ってもらってもいいのかなと思います。宿題を持って帰ってきて、家でやっても、丸つけは学校で終わっているの、なかなかそこまで把握ができていないところがあるので。全部を学校に教えてくださいと押しつけるのも、それはどうなのかなと思います。

また、無回答率の高さも気になります。分からないからやめたというのは嫌だなと思うので、分からなくても書く、解くという向上心を持てるような、先生の言い方とか、親も頑張っていきたいなと、今回はこれを見て思いました。

以上です。

大西教育研修
センター長

ご意見ありがとうございます。確かに、本当にここにも先ほどの生きて働く知識、技能ということでお話しさせてもらったんですけども、それを今、出題傾向が基礎、基本の力を使ってどう解くかというような、そこに対応できていないというふうになると、本来の意味での、算数の定理の意味であったりだとか、そういったことをより理解していくような学習活動が必要なのかなというふうに思います。

それからもう一つ授業もそうなんですけれども、宿題が分からなかったりだとか、各校でいろいろ補充学習、放課後や給食の待ち時間であったりだとか、中学校だったらテスト前の個人学習1週間とか、今後も継続してやっていきたいなというふうに思っています。

保護者とどう連携していくかということも、私は課題だと思っていますので、学校の学習の状況であったりとか、子どもがテストをためて持って帰り、学期末だけ見せるじゃなくて、日常的にテストファイルを持って帰って、今こんな状況なんだなということを保護者と共に分かり合える方法をとったりとか、各校といろいろと連携を取りながら考えていきたいなと思っています。

ご意見ありがとうございます。

有馬委員

懇談で小学校の先生とお話ししたときに、子どもたちは単元テストを出すど、単元テストは結構いい点を取るんです。

ところが学期末のまとめのテストになったときに、単元テストでは解けていた問題なのに解けなくなっている子が多くなっているというお話を聞きました。うちの娘だけでなくほかの子も多いという話も聞いたので、その辺も頭の片隅に入れてもらえてたらいいかなと思います。

美濃教育長

ありがとうございます。今の話は何か、こういうことなんだろうかというような推論みたいなものはできますか。

大西教育研修センター長

一つは、本当の意味で理解してないときに忘れてしまいがちなのかなと思います。これは僕の意見ですが、例えば漢字であれば、書けるのは書けるのだけれども、それを別の文章で使うとなったときに、漢字の成り立ちや意味が分かっていない場合に、別な読み方だけで当てはめてしまうということがよくあると思います。一つ一つの基礎的な学習をするときの解き方というのが一つと、どうしても人間は忘れてしまいますので、その一つが家庭学習との連動ということで、授業でやったことを家庭学習で取り入れたり、今でしたらタブレット端末を持って帰っていますので、学習したところをAIドリルで復習する宿題を出すとかいうことで、復習を繰り返していくべきのかなというふうに思っています。委員からお話を聞かせていただいた上で、その辺のサイクルをうまくできるようにしていく必要があると思いますので、取り組みたいと思います。

美濃教育長

学校の授業のことも大事でしょうけれども、家庭での学習の状況というのがやはり見逃せない部分であるのではないかと思います。何か言及できる部分はありますか。

大西教育研修センター長

家庭学習という意味でいくと、かつてはクラスによって宿題が違ったりとか、そういったことがあったかもしれないですけども、今、松原では学年とか学校で、算数プリントと計算ドリルみたいな計算問題、漢字的な問題、本読みだったり自主学習だったりとか、その辺はほぼ統一されていますので、家庭学習は結構統一されてきていると思います。

ただ、かつての、家に行って分からない子の様子を伺うだとか、そういったことは、確かにコロナ禍で減ってきているかもしれませんが、もちろん家庭、

美濃教育長

保護者と連携して、課題の共有ということは小まめにやっていくべきだと思うんですけども、家庭でできない部分というか、学校の中でどれだけできるんだということをまず考えていくべきではないかなと考えます。

確かに家での生活の様子を見ると、ゲームをしている時間やスマホを使っている時間が、松原市は全国や大阪府より随分高く、反対に本を読む時間は短いとか、朝ごはんも食べる子が少ないとか、そういったいろいろな課題があると思います。そこはもっと家庭との連携をしながら、学校での学力保障をどうやっていくのかということが課題なのかなというふうには思っています。

以上でございます。

ほかにございますか。

よろしいですか。

また後で、何か思い出したということがあったらお願いします。

ほかには案件はありますか。

では私から1点、報告させていただきます。

予定になかったものなんですけれども、資料をお配りさせていただきました。アドバンスインターンシップのことです。実施前から、教育委員会委員の皆さん方には、こういうことを考えている、こういうことをやりたいということはお話しはしてきたところなんですけれども、この8月から実際に動き始めて、その間、マスコミにも複数社、取材いただきました。読売新聞、日本教育新聞、それから教育新聞。3社が実際に取材に来ていただきました。

日本教育新聞と読売はインターネットでも記事は確認できるんですが、教育新聞は会員制の記事なので、もしかしたら見られないかもしれないと思いついて、印刷物を配らせていただきました。詳細はまたお時間があるときに読んでいただければとは思いますが、この間のことを申し上げますと、実際に始まってから約2か月がたちました。この記事を書かれている時点は9月半ばでございます。1か月半ぐらいたった時点で、当初学生チームが考えていたテーマをもう少し具体化してくださいと。その具体化したものを4チームのリーダー4人に集まってもらって報告をしてもらおうという場面を設定しまして、それを取材してくれたときのものがございます。

当初の研究テーマで言うと、ICTを使った教育の充実というのが2チーム、保護者とのよりよい関係づくりを挙げたところが1チーム、それと特別支援教育に関する研究テーマが1チームの全部で4本だったわけなんですけれども、どのチームにも共通して言えたのが、なかなかやっぱり具体の部分に絞りがきかない。それはやはり経験の少なさであったり、知識量であったり。あるいは一番差が出ていたかなと思ったのはチームとしてのディスカッションの機会をいかに多く持てたかどうか。そこで大分差が出ていたかなと思います。幾ら文字ベースで今日こんなことをやった、こういうことを考えたというのを共有できたとしても、生で意見を交換することに勝つことは多分ないんだなということが出たのかなと思います。チームによっては直接顔を合わせてディスカッションできたところもあれば、Zoomみたいなオンラインで打合せをしたところもありました。データの共有だけで終わっていたというところもございました。そういうところでの差が出ていたかな

と思いました。

具体的には、これから本当に深まっていくところなのですが、若干当初のテーマから軌道修正したチームもございます。最初、保護者とのよりよい関係づくりということを目指していたチームは、なかなか具体化する部分が難しいなというところに行き着いたらしく、テーマとしては何が足りないのか、自分たちのチームでやりたかったのは何かということに立ち返って考えたときに、教師が保護者との関係性に悩んで、子どもたちと時間を共有しづらくなっているんじゃないかというところが問題意識としてあったというところに立ち返って、もっともっと子どもと関わるために、何とか時間を捻出できないかというところを研究していこうというところになったようですね。結果としては、そのチームもうまくICTを使って子どもたちに向き合う時間を作り出せないのというところで、ICT関係が3つになりそうな感じです。

あと、特別支援教育に関しても非常に課題として絞りづらい様子です。というのは、障がいの種別によってもアプローチは全然違うし、指導方法なのか教材なのか、それとも組織体制づくりなのか。そういうあたりでもなかなか的が絞り切れないというところもございましたので、ちょっと助け舟を出すことにしまして、特別支援学校の管理職の先生にもご協力いただいて、チームと一緒にグループディスカッションをやろうということになりました。そこで具体的な方向性を見つけ出ししていこうというような予定にしています。それも今週末にやるつもりなので、残り2か月半ぐらいになってしまいましたけれども、それまでの間に何らかの結論、最終的に政策提案を目指しますよということを宿題として課しておりましたので、そこまで持っていけるように何とかやっていきたいなと思っています。

これまでは事務局内で職員にいろいろ話を聞いてみたり自分たちで調べ物をしてみたりという場面が比較的多かったんですけども、もう少しこれからは現場に出向いて先生方に直接話を聞いたり、授業の様子を見たりする中で、よりテーマとして深めて、具体的な提案ができるようにしていけるのではないかなと思っています。

このAIMに関しては個人質問の中でも3名の方が質問の題材として取り上げたり、手法としては新しいこともあって、結果はまだ出ていないですけども、手法としてはなかなかいいんじゃないのという評価をしてくださっている方が多いように見受けました。

現状で申し上げられるのはこれぐらいです。まだ未確定情報もあるんですけども、年が明けてから関係してくださっている大学にもご協力いただいて、最終の成果発表会というのをやりたいなと思っています。その際には、市長を初め委員の皆様方や市議会議員の皆様、また大学関係者、興味のある学生にも来てもらえるように、集まりやすい日時で設定して、みんなで最後を見届けたいなというふうにしております。

またご報告できるものができたら、またその都度情報提供をさせていただこうと思っております。

私からは以上です。何かありますでしょうか。

田中委員

今、教育長がおっしゃられたテーマの中で、保護者とのよりよい関係づくりについてというのがあったんですけども、このテーマは結局は継続するのですか。

美濃教育長

この保護者とのよりよい関係づくりというテーマ自体は軌道修正をしたということです。問題意識として、先ほども少し申し上げましたけれども、保護者とのよりよい関係づくりというテーマを掲げた根底にあったのは、先生たちが保護者となかなか、いろいろもめるような場面もあって、保護者対応のために子どもに向き合う時間が取れてないのではないかという仮定に基づいたテーマ設定だったわけです。

それを職員とも意見交換する中で、保護者がみんな文句を言ってくるわけでもないし、建設的な意見を言ってくださる保護者もたくさんいるということがわかりました。その中で、もしかしたらこれはテーマとしては、少し変えたほうがいいんじゃないかということを経験自身が気づくに至ったということです。大本であった子どもたちともっと関わるために、どう時間を捻出するのかというところで、そこでICTの活用に思い至りました。ほかの、最初からあった2チームは学力向上のためのICT活用というテーマをあげてたんですけれども、このチームは先生と子どもの時間を捻出するためのICT活用という部分で攻めたいんだということでやっています。

何か補足があればお願いします。

矢野学校教育
部次長

今日も軌道修正したグループがインターンシップで2名来ておりました。今日、食いついて聞いてこられたのが、松原市には校務支援のパソコンがもう既に2年前から導入していただいている、学校の校務は画期的に大きく改善されてはきているんですけれども、GIGA端末が新たに入って時間もたっていく中で、もっとICTを上手に使ったら、子どもたちにもっと先生が向き合えるのではないかという仮説を立てて、今日はいろいろなアプローチを試していました。例えばGIGA端末の故障についてはニュースでも出ていましたので、どのような原因で壊れているのか、それに対してどうアプローチをすれば故障が減って、子どもも先生もロスなく授業に端末を使って向き合えるのかということで、今日は教育総務課長のところにも行って、今の時期はどうですかというのを食いついて聞いていました。自分たちなりにゴールに向けて、インターンの中でたくさん質問しながら進んでいるなどこのを見ていて思います。

以上です。

田中委員

保護者とのつながりで質問させてもらった理由ですが、昨今いろんな問題が出ていますよね。いじめに関して学校側と保護者がとか。要はこれは、保護者と教育委員会、学校との信頼関係だと思えます。これが全くなくなってしまうとああいうことになってしまう。だから信頼関係を構築することが大事ですけれども、それをいかに継続するかということのほうが大事かなと思います。それで今、教育長の話の中で学生の新鮮な目を見たときに、こういった課題をどういうように、解決まではいかないけれども、どういった視点で見ているのかなということに興味があったので、質問させていただきました。

確かに、学校側と保護者側の信頼関係が成り立ってこそ、教育行政も成り立つと思うので。そういうところが崩れてしまうと何もならない。先ほども全国学力・学習状況調査の結果の報告もありましたけれども、そういうことも踏まえていろんなことが崩れていってしまうので、これは一番大事なこと

だろうなと思って質問させていただきました。ありがとうございました。

佐野委員

全国学力・学習状況調査の話に戻っていいですか。

先程有馬委員が愕然としておられました。僕は愕然どころじゃなかったです。もう帰ろうかなと思いました。というのは、地域のことをやっているというのは、目的は子どもなんです。当然、地域の人たちが力を合わせて、子どもたちにいろんな行事をさせる目標は、子どもたちのいろんな意味での勉強のつもりなんです。その結果がこれだと、何のためにしていたのかと思います。いや、それは点数的なものです。それも松原市全体で集約しているので、学校別の結果を頂けません。当然、出せないのは分かるんです。でも、平均値というのは上と下があるわけですね。やっぱり下げるのは下側なんです。学校別に数字が出ていると、明らかにこの学校は何か問題があるのではないかとというのは出てくるんですね。

矢野学校教育
部次長

ありがとうございます。学校にはもちろんきちんこの分析をさせないといけませんし、分析は僕たちも市全体の分析をして、それぞれの学校のデータももちろんあるし、その中のデータも分析はしていくんだけど、今回僕たちもデータを見て、なかなか学力のしんどい人、今まで本当に松原市で大事にしてきた、地域の方と一緒に大事にしてきた学力のしんどい層にきちんとアプローチをして、全体の底上げをしていくという、このことそのものが、先ほど委員からも指摘があったように、全体として弱くなっているのではないかとこの指摘は、僕らも分析の中でしているんです。そのことを、どこの学校がという、佐野委員のおっしゃることは分かるんですけども、そこが悪いということではなくて、やっぱり子どもたちの学力を全体で見ていくときに、もちろんできる子はできる子できちんと伸ばしていかないといけないし、学力に課題がある子については、どこの部分でつまづいているのかをしっかりと分析した上で、丁寧に、もともとの生活も違ったりするわけですから、特に丁寧にしてあげないといけないかと思ったりするんですね。

実際、松原の22の学校はそうやって、学力のしんどい子に一生懸命、学力を底上げしてきたと思うんです。それを地域の方はずっと横で支えてくれていたんです。それが松原の良さなんです。それがちょっと今、弱くなっているのではないかとこのことについては、僕らも絶えず学校に返しているし、そこをもう一回見詰め直して、学校全体の学力の今の分布を見て、学校としてどこに力を入れて学力保障をしていくのか。今まで1年間やってきたことの、やれているつもりでやってきたけど、ここでこんな結果が出てしまったということは何を变えないといけないのかということを中心に分析して取組をしたいと思っております。よろしくお願ひします。

和田委員

先ほどのGIGA端末の件で聞いてみたいなと思ったんですけど、昨日かの新聞に各校で結構壊れていて、予算で困っているというのがあったんですけども、松原の場合はどんな感じなのかをお聞きしたいと思います。壊れないパソコンを買ったかどうかと思ひまして。

田中教育総務
課長

松原でもやっぱり端末は故障しています。活用が広がるに従って、室内だけでなく屋外で活用するときに、ノートパソコンなんですけれども、写真を撮るときに完全に反転させてしまうので、その状態で落としてしまうと画面

が割れてしまう、もしくは外に出ているので子どもと一緒に水に浸かってしまったり、そういう状況で壊れたりしています。活用の範囲が広がるにしたがって端末の故障も増えているんですけども、松原市のほうでも基本的には修繕料と、新規の端末何台か分の予算を取らせていただいているところと、もともと導入したときに、予備機を導入させてもらっているんで、今現在は修理に出している間も含めて、予備機等での対応プラスそれでも足りないときには、修理に出しているときに端末をリースして、その期間だけ活用するという形で今させてもらっているというのが現状となっています。

和田委員

ありがとうございます。

佐野委員

今年の頭に、市長たちと会議をしたときに、しっかり予算を取られていますとおっしゃっていたので安心はしていたけど、結果的にはやっぱりしんどい状況なんですよ。

いや、予算を取ればいいと思うんですよ。通る、通らないは別にして。通してくださるんですよ。だから予算をたくさん取って、対応できるようにしたほうが、僕は絶対いいと思います。だって、先生の分が壊れているから生徒の端末を借りてやっていると、いまだに聞いているので。その辺は、本当に頑張っただけで予算を取って、潤沢にやっつけなければなと思うんです。無理な要望ですが。

田中教育総務
課長

今年度、予算を取らせてもらったときに、昨年度の故障台数をベースとして取っていたので、実際それと今、一緒ぐらいになってきているんです。去年より活用も広がっているので、委員がおっしゃるみたいに予算要求するときには、今の想定でどれぐらいという形でさせてもらおうと思っているので、実際どうなるか分からないですけども、できるだけ学校の負担がないような形で予算を取りたいと考えています。

佐野委員

そうですね。端末を買ってもう2年目ぐらいになっていますよね。3年目になるともっと壊れます。タブレットだけに壊れやすいんですよ。ノートパソコンだともう少し強いんです。これは値段の差があるので、仕方ない部分なんですけれども、ただこれからの予測をするときに、倍取らないといけないと思います。4年目になってきたら悲惨な状態になります。これは専門家の意見として、ご考慮ください。

美濃教育長

ありがとうございます。しっかりご意見を参考にして、予算の上積みを目指しましょう。

私としても、壊れたらいけないから持って帰るのをやめさせようとか、あまり使い過ぎないようにしようとか、それは違うと思うので。学びを充実させるために導入した機械なので、その部分は譲らずにやっていきたいなと思っています。ありがとうございます。

比嘉委員

この松原市アドバンスインターンシップ、初めて知ったんですけど、すごくユニークな取組でいいなと思います。こういう取組はどんどん市町村教育委員会に広まっていけばいいなと思います。学生の発想だから教育委員会の人も新鮮な感じがします。違う視点で捉えるということでお互いに、学生

も、それから教育委員会も先生方も今までこんなこと聞いたことないなというような。

今年は教員採用試験の受験倍率が本当に下がっていますよね。それは、僕はマスコミが悪いなと思うんです。教師の悪いことばかり書いていると思うんです。僕は教師を今50年やって素晴らしいなと、やっていてよかったなと思うんです。だから、昔はもっとそうだったと思うんですけど、何かマスコミとかそういうので、こういういい企画をどんどんやっていただいて、訴えて、自分も先生になりたいという若い人をもっと増やしていかなければならないと思います。

いい企画で、どんどんこれを広げていったらいいなと思いました。ありがとうございました。

学生も個人的にインターンシップに行っているけど、教育委員会に行くというのは、ないと思うんです。だからもっと違う発想で、個別にインターンシップに行くのと、教育委員会に行つて学ぶのとは違うと思います。またよろしくお願いします。

美濃教育長

ありがとうございます。
ほかにございますか。

各 委 員

なし。

美濃教育長

それでは、以上をもちまして10月の定例教育委員会を終わります。皆様、本日はどうもありがとうございました。

(閉会宣言 午後4時20分)

署 名 教育長 美濃 亮

委 員 比嘉 悟